

山岳信仰を背景に、二百年以上伝承されてきた
「鳥海山北麓獅子舞番楽」

屋敷番楽・坂之下番楽・濁川獅子舞
国指定重要無形民俗文化財へ！

文部科学大臣は、3月24日、屋敷番楽・坂之下番楽・濁川獅子舞を、にかほ市所在の伊勢居地番楽など五団体とともに、「**鳥海山北麓獅子舞番楽**」として、重要無形民俗文化財に指定いたしました。

本市における国の重要無形民俗文化財は、平成23年に指定された「本海獅子舞番楽」に続いて2例目となります。

本市では、今後も国・県の指導・協力を得ながら、保護団体とともに継承に努めて参ります。

名 称	： 鳥海山北麓獅子舞番楽（ちょうかいさん ほくろく ししまいばんがく）
所 在 地	： 秋田県由利本荘市、にかほ市
保 護 団 体	： 鳥海山北麓獅子舞番楽由利本荘市保存協議会 鳥海山北麓獅子舞番楽にかほ市市保存協議会
構 成	： 屋敷番楽・坂之下番楽・濁川獅子舞 【由利本荘市 3 団体】 伊勢居地番楽・釜ヶ台番楽・冬師番楽 鳥海山小滝番楽・鳥海山日立舞 【にかほ市 5 団体】
指 定 日	： 令和 8 年 3 月 2 4 日

● 説 明：

鳥海山信仰を背景に、北麓の本市とにかほ市の8地区に二百年以上に亘って伝承されてきた神楽です。「番楽(ばんがく)」と称され、鳥海町に伝わる「本海獅子舞番楽」から伝授されたといわれる、獅子舞を重要視した神楽でもあります。

獅子舞は、ご神体の獅子頭を奉じて他の演目に先立って演じられる舞で、神社の祭礼やお盆の時期のほか、新築の際にも舞われています。

本海獅子舞番楽と共通する演目も見られますが、獅子頭の振りや歯打ち、演目の最後に「空白舞（からうすまい）」（「空白からみ」とも）で終える点にも特色が見られます。

鳥海山北麓獅子舞番楽は、東北地方の神楽の変遷過程を考えるうえで貴重であるほか、地域的特色も示している点でも重要であるとして、この度指定されたものです。



由利本荘市教育委員会

二百年以上に亘って北麓の8地区に伝承されてきたこれら獅子舞番楽は、「本海流」あるいは「本海系」の獅子舞番楽とも称されてきました。

獅子舞を重要視している点で「本海獅子舞番楽」と共通していますが、獅子頭の振りや歯打ちが比較的緩やかでゆったりとした点に特色があり、演目の最後を「空白舞」で締めくくるのも特色とされています。

演目は獅子舞から始まり、儀式的な「式舞」へと続き、「神舞」「武士舞」「女舞」「道化舞」が演じられ、「空白舞」で締めくくられます。演目数は団体により異なりますが20番伝承している団体もあります。

【坂之下番楽（坂之下番楽保存会）】



空白舞

藩政期には「御用番楽」として、矢島藩の庇護を受けていました。お盆と正月には、御殿に参上して演じていたと伝えられています。「熊野神社」の祭典で舞を奉納し、8月14日の夏祭りの後には、集落の会館前でお盆公演が行われています。現在の会員は14名で、16演目が伝承されています。演目は次のとおりです。

獅子舞／四季／翁／三番叟／伊賀／鳥舞／五拍子／地神舞／小弓舞／三人立／木曾／那須与市／スズガ舞
ソック／餅搗／唐臼からみ



女舞「スズガ舞」

【屋敷番楽（屋敷番楽保存会）】

天明3年（1783）、矢島町荒沢におもむいて習得したのが始まりとされ、8月16日と8月26日「春日神社」に奉納した後、集落の「舞楽堂」で現地公開が行われています。現在の会員は20名で、20演目が伝承されています。

神舞／獅子舞／翁／先番楽／三番叟／三人立／弁慶／餅つき／矢島小弓／志賀団七／蕨折り／鳥舞／橋引／神々舞／治神楽／空白舞／腰小弓／可笑／熊谷／忍／



式舞「翁」



武士舞「志賀団七」



道化舞「餅つき」

【濁川獅子舞（濁川獅子舞保存会）】

1月1日と8月13日に集落内を回り悪魔祓いを行っているほか、7月8日の「木境大物忌神社虫除け祭り（県指定無形民俗文化財）」において獅子舞を奉納し、祭りを構成する重要な要素となっています。現在の会員は6名で、2演目を伝えています。

獅子舞／神舞（獅子振り・素手の舞・扇の舞・剣の舞・襷の舞で構成）

